こじ

Vol.43
2018年2月発行号
ご自由にお持ち下さい

地域医療のかけはしとなることを願って

Contents

P2～3　内科（糖尿病）紹介
P4～5　KMカート紹介
P6　ワークライフバランス
　　新任Dr.紹介
P7　連携医療機関紹介
P8　診療日程案内

社会福祉法人
恩賜財団 済生会川内病院

【表紙写真】

今回は職員から募集しました。応募作品の中から広報委員会で選定しました。

撮影者

かみむら　きょうへい
神村恭平さん

- 職員の家族です。
- 撮影日：2017年2月
- 場所：東京都大田区洗足池公園

本人より

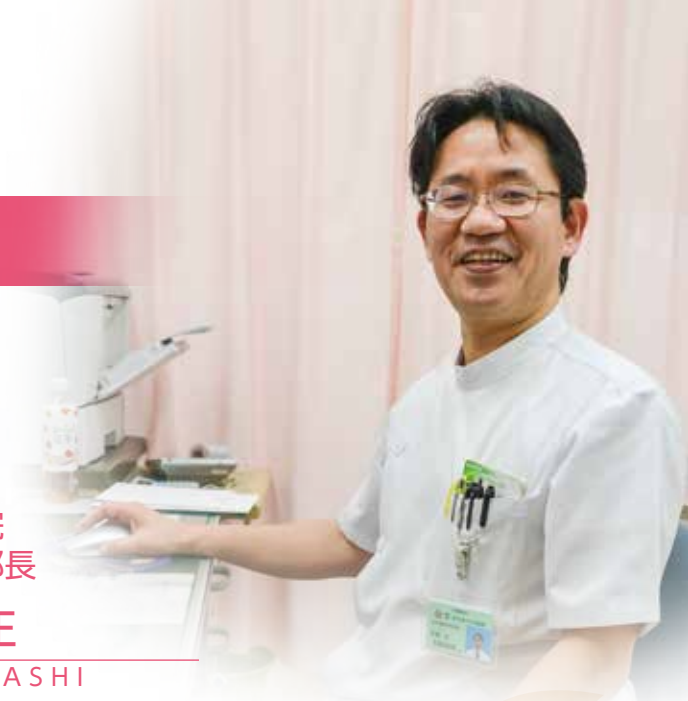
表紙に選んでもらい有難うございます。今後もいい写真を撮り続けたいです。

Doctor's eye

内科（糖尿病）の紹介

平成29年7月1日より糖尿病内科常勤医として済生会病院に勤務しております宇都と申します。今回は新体制となった当科の紹介をさせていただきます。

済生会川内病院
内科（糖尿病）部長
宇都　正
UTO　TADASHI



診療体制

済生会川内病院内科（糖尿病）はここ10年ほど鹿児島大学病院等からの非常勤医によって各曜日を支える形で診療を続けて参りましたが、現在は常勤1名、非常勤1名の体制となりました。

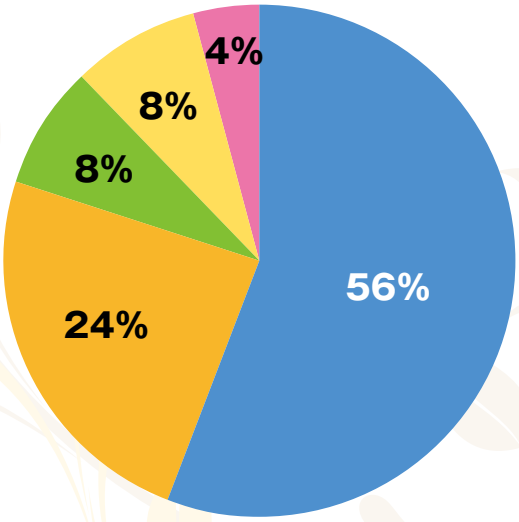
外来患者総数は2017年9月末時点で745名、うち4割強の方がインスリン療法を行っておられます。外来には糖尿病療養指導士の資格を有する看護師が常駐し、治療状況の把握や療養指導に努めています。外来でのインスリン導入や自己血糖測定指導も可能です。

病棟にも糖尿病療養指導士の看護師が配属され、治療サポートの他、管理栄養士、薬剤師、理学療法士・作業療法士とも協力して1週間の糖尿病教室スケジュールを組んでいます（表1）。

私が着任して2017年7月から12月までの6ヶ月間で25名の入院がありました。平均の入院日数は20・2日で、入院理由については教育や治療の強化が半数強を占めています（図1）。

次いで手術前の血糖管理です。周術期は種々のストレスで血糖が上昇しやすく、創部の感染や回復の遅れにつながるため、内服から短期的にインスリンに切り替えるなど治療の強化が必要となるためです。

【図1】入院の理由



高齢化に伴う糖尿病の現状

2017年9月に発表された厚生労働省の調査では糖尿病の患者数は1000万人に達し、成人の10人に1人が糖尿病となりました。患者の平均年齢も65・57歳と社会全体の高齢化に伴い、高齢化が進んできているところです。

高齢者糖尿病の特徴として

①口渇、多飲などの症状が出にくい

②筋肉量の減少や膵臓からのインスリン分泌低下に伴い食後高血糖が顕著である

③腎機能低下による薬剤の蓄積などから低血糖を来しやすい

④三大合併症（網膜症、腎症、神経障害）に加え、脳梗塞、心筋梗塞の頻度が高い

などが挙げられます。

当科では昨年から患者さん全員に糖尿病連携手帳（図2）を配布し、血液検査の記録に留まらず、眼科受診、腎機能検査（尿タンパク・アルブミン定量）、心

電図、頚動脈エコー、血圧脈波検査などの合併症チェックに漏れがないか、確認作業に力を入れているところです。

進化し続ける糖尿病診療

糖尿病の原因はインスリン分泌低下とインスリン抵抗性（肥満や運動不足、筋肉量減少などによるインスリンの効きにくい状態）の2つに大別されます。

後者が主体の場合、食事や運動療法が大切なのはもちろんですが、最近では尿糖から糖を排出させ、体重を軽減するなどユニークな薬も出ており、種々の薬をうまく使用することで低血糖を回避しつつ良好なコントロールを得ることが可能となってきています。GLP-1受容体作動薬といって注射剤ではありますが、1日1回もしくは週1回の使用でインスリン分泌を高め、かつ体重も抑制するという利便性の高い薬剤もあります。

一方でインスリン分泌低下が強く、内服薬のみで改善に乏しい場合はインスリン療法を検討することになります。始めたら一生続けないといけなくなる、膵臓が怠けてだめになるなどと言われる方がいますがこれは全くの誤解です。インスリン分泌低下とは膵臓が〝息切れ〟に陥った状態ですので、インスリンを注射で補った方が膵臓の負担軽減につながります。使用後内服治療に戻り、そのまま好調を維持する方もおられます。インスリン分泌が枯渇に至っていなければ、内服薬を併用してインスリンの単位数や注射回数を減らすことも可能です。

終わりに

糖尿病は日頃の症状に乏しいため油断しがちですが、いざ合併症が出現すると大変なことが多く、日常生活の質の低下に直結します。これからは川薩地域の糖尿病専門医として、皆様の健康維持・増進に貢献できるよう頑張っていく所存ですので何卒宜しくお願い申し上げます。

【表1】糖尿病教室スケジュール

曜　日	講義内容	担　当
月	足の手入れ、日常生活	病棟看護師
火	低血糖、具合の悪いとき（シックデイ） 薬物療法	外来看護師 薬剤師
水	糖尿病とは、合併症について	医師
木	運動療法	理学療法士・作業療法士
金	食事療法	管理栄養士

【図2】

糖尿病連携手帳

腹水患者に対する改良型腹水濃縮濾過再静注療法（KM-CART）を導入して

済生会川内病院
副院長・外科主任部長・がん医療委員会委員長
有留邦明
ARIDOME KUNIAKI

腹水は、抜くと体に好ましくないといった概念は以前より存在しています。本邦における腹水の穿刺排液は、幕末、1823年に長崎に着任したドイツ・ヴィルツ大学出身のオランダ人シーボルトが3回ほど施行して報告しています（蘭方口伝：シーボルト験方録）。本邦の歴史においても、多くの腹水患者が、強い苦痛の中、症状緩和が得られないことが多かったと推察され、腹水難民ということも言われるようになったようです。20世紀後半、1973年に初めて腹水濃縮濾過再静注療法の原型が本邦にて臨床報告され、CART（Cell-free and Concentrated Ascites Reinfusion Therapy）と命名されています。CART（カート）は、腹水穿刺によるドレナージ（排液）ではなく、抜いた腹水を濾過濃縮して蛋白成分を再静注する腹水治療法で、1977年に現在の形のCARTシステムが発売となり、その後、本邦にて、普及・改良が進み、最近の改良型のKM-CARTの出現に至っています。このKM-CARTは、簡便で、多量の難治性腹水にも対応し、CARTの副作用である発熱を軽減しています。

【写真1】ME室にて
後列左より仮屋、川畑主任、有留医師、竹添
前列左より山下、山内主任補佐、春田

昨今のがん医療は、分子標的治療薬、免疫療法、ゲノム医療、AI（人工知能）の参入、低侵襲手術、高精度放射線療法に伴い、指数関数的な進歩をとげる様相を呈してきています。しかし、がんの患者さんの治療を進めていくにあたり、しばしば、腹部膨満感、悪心・嘔吐、呼吸困難などの難治性腹水の症状の治療が必要となることは変わりはありません。

腹水の原因は、大きく分けて、胃がん、大腸がん、膵臓がん、卵巣がんなどの、がん細胞の腹膜播種転移による、がん性腹膜炎などにより、お腹の炎症が原因で起こる場合と、肝硬変、腎不全、心不全などの病気により血管に水分を保持できなくなる原因でおこる場合があげられます。当院は、地域がん診療連携拠点病院であり、多くの癌性腹膜炎の患者を診療しています。癌性腹膜炎に伴う難治性腹水は、強い腹部膨満感や呼吸苦、食欲不振などを生じて、患者のADLからQOLを著しく低下させて、抗癌剤治療の中止につながる上に、オピオイドなどの各種薬物療法では症状緩和が極めて困難です。また当院は、肝疾患診療連携専門医療機関でもあり、多くの肝硬変の難治性腹水患者を抱えています。当院ではこれまで、癌性腹膜炎や肝硬変の難治性腹水に対しては、CARTを中心に治療を行ってきました。

CARTは、腹水の穿刺排液を行い、その抜いた腹水を再利用して体内に戻すという治療法で、腹水を抜いてがん細胞や細菌などを取り除き、アルブミン・ガンマーグロブリンなどの有用な自己蛋白成分を特殊な体外循環濾過装置を用いて回収し、濃縮後に点滴で血管内に戻します。しかし、この従来のCARTによる治療法の問題点として、腹水の回収や濃縮に時間がかかることや、点滴後にアレルギー反応などによる発熱が報告

されています。また、腹水の性状は疾患によって異なり、特に、がん性腹水などでみられる血性腹水や粘液性の腹水の場合、濾過濃縮の過程で濾過フィルターが目詰まりを起こしやすく、十分な量の腹水が回収できないことが起こり、当院では、従来、2リットル程度までの回収が平均的なものでした。また、濾過濃縮液の再静注を見合わせることもしばしばで、次第に、がんによる悪性腹水のCARTは控えるようになりました。

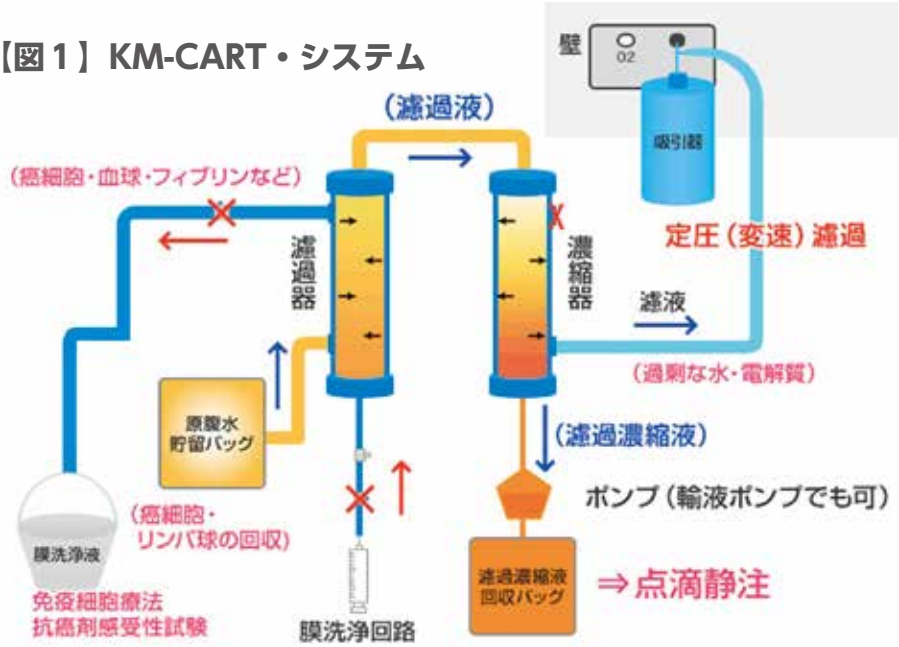
そこで当院は、改良型腹水濃縮濾過再静注療法（KM-CART 写真2、図1、図2）に注目し、私とME室・臨床工学技士の川畑栄喜主任とで、東京、要町病院に研修に赴き、当院へのKM-CARTの導入に着手しました。KM-CARTは、濾過回収方法を内圧式から外圧式へ改良し、短時間で多量の腹水の濾過濃縮ができるように松崎圭祐先生（要町病院腹水治療センター）が開発したものです。大量の腹水を短時間で処理可能で、従来の方法では困難であった各種がん性腹水の治療の効果が、飛躍的に向上しました。KM-CARTは装置、回路ともにきわめてシンプル、操作も簡便で、副作用である発熱も軽減し、且つ短時間で多量（当院では最大12リットル）の癌性腹水も無駄にすることなく全量処理可能です。また、腹水中に含まれる自己蛋白のアルブミンが循環系の維持に有用で、全身状態を改善します。また、回収蛋白の中のガンマーグロブリンには抗腫瘍効果のあるものも含まれているものと考えられ、がんに対する治療としても期待されます。さらに、濾過洗浄液から回収される多数のがん細胞やリンパ球を利用した抗がん剤感受性試験、ゲノム医療、免疫細胞療法への応用もすでに検討され、始まっています。

平成29年4月より、当院にKM-CARTを導入いたしましたが、導入に際しては、各科医師と協議を重ね、ME・臨床工学技士のスタッフ（写真1）を中心に、看護師、その他多くの病院スタッフの協力のもとスムーズに導入できました。KM-CARTは、現在症状緩和およびがん治療としてしっかり定着しています。2017年12月現在で、50回のKM-CARTを施行しています。何より、患者さんの腹部膨満（おなかの張り）が消失し、苦痛症状が緩和され、笑顔が戻り、患者本人・家族の体と心のケアにつながっています。今後、KM-CARTは単なる症状支持緩和法ではなく癌治療になくてはならない治療になると考えています。

【写真2】腹水穿刺・採取

左より有留医師、萩原医師

【図1】KM-CART・システム



【図2】再静注

ろ過濃縮液

ワークライフバランス

WLB推進ワークショップで3年間の活動報告をしてきました。

発表者は育児奮闘記でおなじみのつばさ君です。当院を含めら病院の取り組みが紹介されました。

上記は当日の様子です。全員でランチをともにし、楽しく会場に向かい、その雰囲気を保ったまま発表できました。

当院に対する意見を一部紹介します。

- 取り組みを聞いているだけで病院のよい雰囲気・人間関係が伝わり働きやすい職場であるという印象があった。
- 多職種でWLB推進されたことは「すごい」と思った。
- 発表がユニークで職員の方のチームワークも垣間みられ楽しそうな病院だなあというのが一番の印象です。
- 男性の育児休暇取得実績に驚きました。

いよいよ４月から、なでしこ保育園開園です。園児を絶賛募集中です。
４歳未満の子どもがいる潜在 NS をご存知ではありませんか？
病児保育の申し込みは混雑が予測されます。早めの登録を !!

新任 Dr. 紹介

新しく当院の医師となった２名をご紹介いたします。

外科・消化器外科

氏　名：南曲（みなみまがり）　康多（こうた）

出身地　肝付町
前赴任地　鹿屋医療センター
趣　味　トライアスロン
コメント　今回２回目の赴任です。気持ちを新たに全力で頑張っていきます。よろしくお願いします。

研修医

氏　名：鬼ヶ原（おにがはら）　幹久（もとひさ）

出身地　鹿屋市
前赴任地　鹿児島大学病院
趣　味　バレーボール・ボート・日本酒
コメント　鹿児島大学病院桜島プログラムの研修の一環で参りました。川内地区の医療の要である当院での研修を通して、自らを高め、地域のみなさんの健康の向上に貢献できるように精進致します。

信頼と連携の輪　連携医療機関のご紹介

地域の中核病院は、地元の医療機関との緊密な連携プレーが欠かせません。
そこで当院が日頃 大変お世話になっております連携医療機関についてのご紹介です。

《 内科・整形外科・リハビリテーション科 》

▶今村クリニック

院長名　今村　英世
住　所　薩摩川内市宮内町 2641 番地
電　話　**0996-23-4118**
診療時間　【 平　日 】〈午前〉8:30～12:00
〈午後〉13:30～18:00
【 土　曜 】〈午前〉8:30～12:00
休診日　日曜・祝日
※内科は、水曜午後休診

社会福祉法人として、クリニックのほか高齢や障がいの方々の入所施設を運営しております。

また、様々な方々の地域生活を高齢分野や障がい分野と連携し、医療の面から支えてまいります。

診療科の特色

◉ 内科

一般的な内科診療を行います。また、内視鏡検査を行います。

◉ 整形外科

通常の診察のほか、月に 2 回程度、整形外科専門医（愛媛大医学部教授）が診察を行います。

毎月第 2 木曜日午後に、リウマチ専門医によるリウマチ外来を開設しております。

●診療についてのお問い合わせは
☎0996-23-4118
までお願いいたします。

《 肝臓内科・消化器内科・内科 》

▶あおぞら内科クリニック

院長名　潟山　英男
住　所　薩摩川内市平佐町 4235-1
電　話　**0996-22-6370**
診療時間　【 月･火･水･木 】〈午前〉8:30～12:30
〈午後〉14:00～18:30
【 金　曜 】〈午前〉8:30～13:00
【 土　曜 】〈午前〉8:30～16:30
休診日　金曜午後・日曜・祝日
休診時間

受付時間	月	火	水	木	金	土	日
午　前	●	●	●	●	●	●	×
午　後	●	●	●	●	×	●	×

当院は、肝臓専門医、消化器専門医による肝臓病、胃・大腸･胆のう･膵臓などの専門的な診療を致します。また、総合内科専門医でもあり、高血圧、糖尿病、高コレステロール血症などの生活習慣病も診療しております。またかかりつけ医として、風邪などの一般内科も診療いたしますので、お気軽に来院されてください。薩摩川内市におきましては、肝臓学会専門医のいるクリニックは当院のみとなっております。当院では、最新の医療機器を完備し、最先端の医療を常に提供するよう努めています。

◉当院で可能な検査は以下の通りです。
＊胃癌・大腸癌精密検査（胃カメラ・大腸カメラ）
＊日帰り内視鏡的大腸ポリープ切除術
＊腹部エコーによる、肝臓がん、胆のうがん、膵臓がんなどの診断
＊甲状腺エコーによる､甲状腺腫瘍､甲状腺異常の診断
＊頸動脈エコーによる動脈硬化の診断

◉当院での診察、検査の結果、入院治療が必要と判断した場合には、済生会川内病院、川内市医師会立市民病院などの高度医療機関に紹介しております。

診察日程案内

平成30年2月現在

□ は再診日です。

		月		火		水		木		金		土	
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
内科(要予約)	糖尿病	宇都 正		宇都 正		倉野 美穂子		宇都 正		宇都 正			
	消化器	田口 宏樹 山筋 章博		上野 雄一 嵜山 敏男		青﨑 眞一郎		田口 宏樹 上野 雄一					
	肝臓(再診のみ)			非常勤医師		非常勤医師							
	循環器	福岡 嘉弘		福岡 嘉弘 網屋 俊		網屋 俊		福岡 嘉弘		網屋 俊			
	ペースメーカー外来(第3・4金曜)									福岡 嘉弘			
	腎臓	濵田 富志夫		出口 央晋		山下 和		濵田 富志夫		出口 央晋			
	呼吸器	※末次/本川 ／中塩屋		※豊倉和代						副島 賢忠			
	血液内科									中村 大輔			
一般内科		松岡 慧 山下 和 (岩田恵美子)		再診日		岩田 美恵子 児島 一成 (篠原宏樹)		再診日		篠原 宏樹 岩田 美恵子			
外科(予約)	外科	有留 邦明 (予約紹介のみ) ／手術	手術	有留 邦明 萩原 貴彦 ／手術	手術	手術		久保 昌亮		久保 昌亮 (予約紹介のみ) ／手術	手術		
	ストーマ外来				第1・3火曜PM 有留 邦明		第2・4水曜PM 有留 邦明						
小児外科		(一般外科手術)			池江 隆正 (13時30分-16時)	(一般外科手術)		手術		(一般外科手術)	池江 隆正 (13時30分-16時)	池江 隆正 (第2・4土曜のみ) (9時30分-11時)	休診
整形外科(再診のみ)						非常勤医師							
小児科		田中 主美 摺木 伸隆		田中 主美 摺木 伸隆		田中 主美 摺木 伸隆		再診日		田中 主美 摺木 伸隆		田中 主美 摺木 伸隆	休診
泌尿器科		1診 2診	手術	伏谷 俊作 栫木 太郎	手術	栫木 太郎 伏谷 俊作	手術	伏谷 俊作 岡村 俊介	手術	岡村 俊介 栫木 太郎	手術		
産婦人科(予約)	産科	野口 慎一	1ヶ月検診	担当医	検査	松尾 隆志	予約検査	川原 裕二	手術	永井 さより	予約検査		
	婦人科	松尾 隆志		手術日		永井 さより		野口 慎一		松尾 隆志			
眼科		非常勤医師		非常勤医師		木村 勝哲		木村 勝哲		木村 勝哲			
皮膚科		坂口 郁代		手術		坂口 郁代		坂口 郁代		坂口 郁代			
放射線科		井手上 淳一	放射線治療	小野原 信一	血管造影	小野原 信一	放射線治療	小野原 信一	放射線治療	小野原 信一	放射線治療	小野原又は 井手上又は 仮屋	休診
緩和ケア外来(要予約)				有留 邦明・久保 昌亮 (身体症状緩和) 毎週火・木曜日　14-16時				安原／原田 (精神症状緩和) 第1・3金曜日　14-16時					
ペインクリニック(要予約)										西村 絵実			

※呼吸器内科は月曜日又は火曜日(隔週)と毎週金曜日の診察になります。
※肝臓内科・整形外科については、初診の方の受付は行っておりません。
●予約が必要な診療科・検査がございます。恐れ入りますが事前にお問い合せ下さい。
●担当医師は学会出張などにより不在・変更が生じることがあります。
●がんに関する相談をがん相談支援センターで行っております。(平日9時～16時)
●がん患者さんとご家族のサポートを行う緩和ケアチームがあります。
●セカンドオピニオンに関する相談を医療連携室にて行っております(平日9時～17時)

予約・お問い合せは
TEL (0996)23-5221 (代表) 予約電話 月～金曜日
内科:14時～17時　その他:13時～17時

理念

私達は、保健・医療・福祉を通じて地域社会に貢献します。

基本方針

1.患者様の尊厳と権利を常に尊重します。
2.医療情報の開示と懇切な説明による開かれた医療を実現します。
3.私達は常に研鑽し、患者様本意の、良質で安全な医療を目指します。
4.公的中核病院として、地域の先生方と協力し、救急医療と高度の専門医療の推進に努めます。
5.職員の協調と信頼によって、チーム医療の充実に努め、働きがいのある職場を作ります。

患者様の権利と責務について

権利について

1.誰でも、個人の人格や価値観を尊重され、良質な医療を公平に受ける権利があります。
2.病院や治療について十分説明を受けた上で、検査や治療方法など、自分の意志で決める権利があります。
3.診療の過程で得られた個人の情報等（プライバシー）は守られる権利があります。

責務について

1.自分自身の健康に関する情報を、出来るだけ正確に医師や看護師に伝えて下さい。
2.医療に関する説明を受けても十分理解できない場合は、わかるまで質問して下さい。
3.病院の規則を守り、他の患者様の迷惑にならないようご配慮下さい。

病院案内

社会福祉法人 恩賜財団 済生会川内病院
〒895-0074 鹿児島県薩摩川内市原田町２番46号
TEL (0996)23-5221　FAX (0996)23-9797
http://www.saiseikai-sendai.jp/
mail : info@saiseikai-sendai.jp